

チャシブゴケ目ハナゴケ科

コウヤハナゴケ

Cladonia koyaensis Asahina, 1953

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

県内では隠岐（島後）で確認されているのみである。差し迫った脅威は特に考えられないが、生育箇所が限られている。

【概要】

基本葉体は密生し、まれに粉芽をつける。子柄は短く、長さ1－5mm。皮層はなく軟骨質、ウスニン酸、パルバチン酸を含む。和歌山県高野山と隠岐でのみ報告されている日本固有の稀産種である。

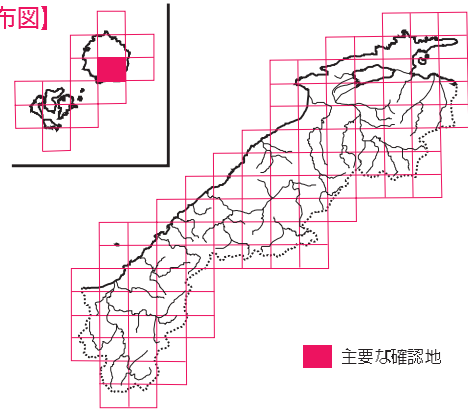
【県内での生育地域・生育環境】

本種は日当たりのよいスギの巨木の根元付近に着生する樹枝状地衣で、本県では神社やお寺にスギの巨木が見られるが、いずれも陰地に生育しているため、本種の生育しそうな環境は少ない。

【存続を脅かす原因】

本種が生育している環境は、参拝者や観光客が多く生育環境が悪化している。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎					○													

チャシブゴケ目ヨロイゴケ科

テリハヨロイゴケ

Sticta nylanderiana Zahlbr., 1924

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

かつては日本各地のブナの樹皮等に着生していたが、最近自然林の急激な荒廃により、個体数は減少し、本種の生育を確認することが困難になっている。本県でも例外ではない。生育環境の悪化による絶滅が危惧される。

【概要】

地衣体は葉状で着生基物に密着する。各裂片は4－12mmで、上面なめらかで、淡黄褐色で光沢をもつ。地衣体は薄い。下面中央部は暗色で、周辺部は淡色の細綿毛をもち、直径0.3－1mmの盃点を散在する。子器は円形で、中央部の子器盤は茶褐色である。国内各地のブナ等落葉広葉樹やオオシラビソ等針葉樹の樹皮に着生する。国外では中国やアフリカにも分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

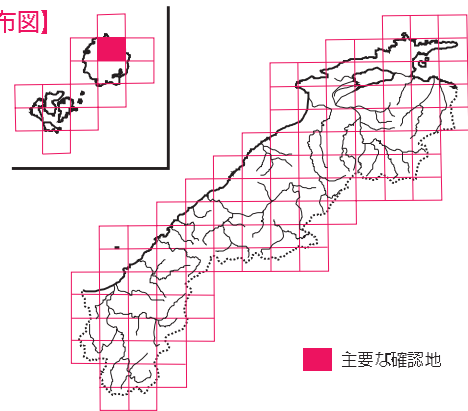
隠岐（島後）の大満寺山から報告されているのみである。中国山地沿いのブナ林等からの生育地が確認される可能性はあるが、ブナ自然林の荒廃等で絶滅が危惧される。

る。

【存続を脅かす原因】

自然林特にブナ林の伐採や荒廃などによる自然破壊。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

地衣類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チャシブゴケ目ヨロイゴケ科

アツバヨロイゴケ

Sticta wrightii Tuck.,1859

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

県内では隠岐（島後）からのみ報告されている稀産種である。最近、生育環境の悪化による絶滅が危惧される。

【概要】

生育地および形態ともにテリハヨロイゴケと一致するが、本種は地衣体表面光沢がなく、やや厚いことが特徴である。本種は、北海道、本州、四国に分布し、国外ではロシア、ヨーロッパ、台湾、中国に分布する。

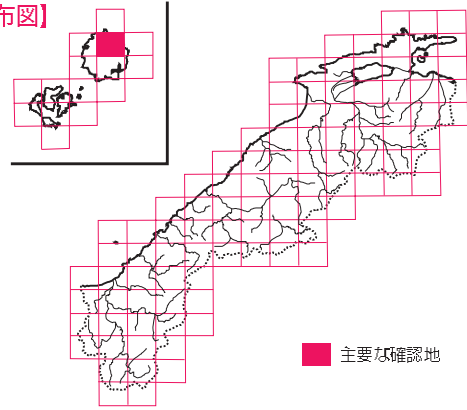
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐のみに生育しているが、テリハヨロイゴケと同様中国山地ブナ林内での生育が考えられる。

【存続を脅かす原因】

自然林特にブナ林等の荒廃および伐採による。

【分布図】



地衣類

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

チャシブゴケ目サルオガセ科

トゲサルオガセ

Usnea aciculifera Vein.,1921

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

比較的低山域に生育するアカマツやクロマツの樹皮に生育するが、最近の県内調査では確認ができていない。

本種は日本各地における調査においてもその存在を確認することが困難になってきて絶滅が危惧されている。

【概要】

本種は糸状で、樹皮より垂れ下がり長さ20cmに達する。地衣体は淡黄緑色で、ほぼ二叉分岐をする。ソラリアはない。地衣体の基部は連続するか不規則な割れ目をもつ。東北地方以南に分布し、国外では台湾、中国、ネパールに分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

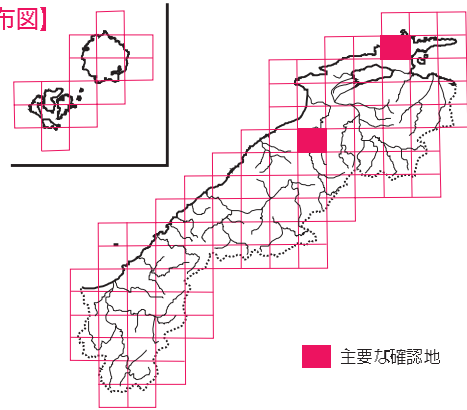
比較的低山域に生育するアカマツやクロマツの樹皮に生育し、これまで県東部及び中部の2カ所からの報告のみである。

【存続を脅かす原因】

酸性雨をはじめ大気汚染の影響で、アカマツやクロマツ

ツリの荒廃による。

【分布図】



絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○				○													

チャシブゴケ目サルオガセ科

ヨコワサルオガセ

Dolichousnea diffracta (Vain.) Articus, 2004

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

県内では1959年採集の標本から隠岐（島後）にのみ生育していたことが確認されているが、生育環境の悪化による絶滅が危惧される。

【概要】

体長70cmに達する糸状の地衣類で、中国地方では普通ブナ帯域に生育する。他のサルオガセ属の仲間と酷似するが、本種は地衣体表面に多数の輪状の裂溝を生じ区画されることにより区別できる。普通海風の強い島嶼部には生育しないとされている。

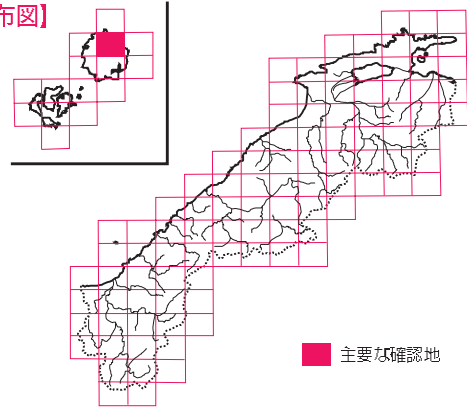
【県内での生育地域・生育環境】

本種は隠岐岳山の海拔340mと比較的低い地域で採集されたもので、島嶼部であること、比較的低山での生育は植物地理学上貴重である。2002年の調査では、確認できていない。本種は北海道から九州までの自然度の高いおもに冷温帯以上の森林から報告されている。国外ではロシア、台湾、中国からの報告がある。

【存続を脅かす原因】

大気汚染や自然林の荒廃や古木の伐採等の影響が考えられる。

【分布図】



地衣類

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足